

著者の一人大橋は、本種を仙台市において栽培し、開花、結実したことを報告し、本種が中国での自然分布域や日本での帰化産地よりも北で生育することを示唆した（大橋ら 2003）。しかし、本報の新帰化産地は、野生状態の生育記録では最北であり、これまで記録されている産地とは全く環境の異なる多雪地である。積雪下での越冬は氷点下の低温からは保護されるが、長期の低温と過湿条件への耐性が必要であり、オクシモハギの多雪地における10年にわたる生育は、本種の適応力を示すものとして注目できる。現地での秋季の比較観察では、ヤマハギでは多くの葉腋に越冬芽が発達しているのに対して、オクシモハギでは発達した越冬芽は葉腋に見られず（Figs. 1D, E），おそらくケハギと同様に茎の地上部は冬季に枯死し、地下部で越冬しているのではないかと思われ、根元から数本の茎

に分かれる形態もそれを推測させる。今後、周辺に生育するヤマハギ、ケハギ、メドハギと比較しながら、このオクシモハギの消長を観察していきたい。

証拠標本：新潟県妙高市黒倉山黒倉林道法面、ヨシ八池付近、標高815 m, 11 Oct. 2005, Y. Iokawa 6049 (TUS).

引用文献

- Li J. Y. and Chen Y. A. 1995. 胡枝子属. 中国科学院中国植物志編集委員会（編），中国植物志 **41**: 131–159. 科学出版社，北京.
- 真崎 博 1999. 山口県産高等植物についての新知見. 山口県植物研究会会報 **2**: 4–7.
- 大橋広好 2003. マメ科. 清水建美（編），日本の帰化植物. pp. 102–124. 平凡社，東京.
- , 根本智行, 伊藤隆之 2003. ハギ属の帰化植物 4 種. *J. Jpn. Bot.* **78**: 50–54.
- (^a上越教育大学自然系生物学教室,
^b東北大学附属植物園津田記念館)

第82巻1号正誤 Errata in Vol. 82 No. 1

頁 (Page)	列 (Column)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
25	Table 3	↑ 1	Type TW _{cp}	Type W _{cp}
26	Left	↑ 1	the oblong laminas	the oblong type
26	Right	↓ 3	the oblong lamina	the oblong type